



平成27年度 特別講演会を聞いて思うこと

群馬県介護支援専門員協会 副会長 松沢 斉

平成28年2月6日 高崎市シティギャラリー コアホールにおいて、～「病院の世紀」から「地域包括ケア」の時代へ～と題する本年度の特別講演会が開かれました。参加者は推定150名ほどで当日飛び込み参加の方が多く見えたことが特徴的でした。

前半は太田秀樹先生と猪飼周平先生それぞれのご発題、後半はステージ中央で少しだけおしゃれなイスに座って、テーブルにお茶を置いての対談、終始身近な例を取り入れながら分かり易くお話をされる太田先生と、一見難解に感じるお話だったものが後半に一つ分るとそれまでの全てが解けていく猪飼先生、絶妙な間合いの対談もお二人の魅力を十分に引き出してくれたものと思います（惜しむらくは時間の制約でしょうか）。

太田先生のお話のごく一部を私の言葉で紹介すると、治る病気を治らない病気でも諦めずに治療を続けることが医療の使命であることが疑われなかった時代から、治らない病気ならその病気と共により良く生きることによって時代の価値観が移ってきた。その生活の場は住み慣れた地域であることがより高いQOLを担保する。地域包括ケアシステムは「治癒」という概念を離れ、QOLを求めて提唱されているということだったと思います。

猪飼先生のお話は、結局「社会学者は地図屋」という言葉に集約されていたのでしょうか。現在位置があって、どうなりたいのかという場所がある。目的地へ行く道筋は何パターンもあって、途中で使える道具も手段も何種類もあるけど、どの道を通ってどこに行きたいのかは一人一人異なり、道具の使い勝手も途中の障害物も地域によって異なる。地域包括ケアシステムは地域ごとに異なるはずで、どこかのマネをしてもうまくいかない。そして行政や医療・介護従事者たちがそのことに気付いて自分たちの見方や役割観を変えて、システム構築されるのは数十年スパンの話だと。数十年と言われてすごく納得しました。

対談で最後に太田先生がおっしゃっていたことはとても印象的でした。「地域包括ケアの正解は誰も知らない。厚労省も分かっていないしそのことを隠してもいない」という言葉を聞き、何となくおぼろげにイメージしていた地域包括ケアというものが、自分では明確に説明できないし、納得のいく説明を聞いたことも読んだこともなかった理由が理解できた思いでした。「どうすればいいのか？」国に聞いても県に聞いても答えてくれないわけです。市町村とフォーマル・インフォーマルサービス関係者、そして地域住民が一体となって、10年単位の時間はかかるだろうけど、その地域にあったシステム作りを進めることが正解なのでしょう。参加者が一様に感じたことは「危機感」よりも「安堵感」だったのでないでしょうか？少なくとも私はそうでした。

社会福祉法人群馬県共同募金会

赤い羽根共同募金



会報「ケアマネ群馬」は赤い羽根共同募金の助成を受けて発行されています。

「地域密着型通所介護等移行説明会」 開催される

平成28年1月18日（月）群馬県産業技術センター多目的ホールにて、午前と午後の2部構成で上記説明会が開催されました。この日は今年一番の大雪、参加できない事業所も多くあり、1月28日（木）前橋合同庁舎にて追加の説明会も開催されました。

平成28年4月から小規模通所介護が「地域密着型通所介護」へ移行・・・

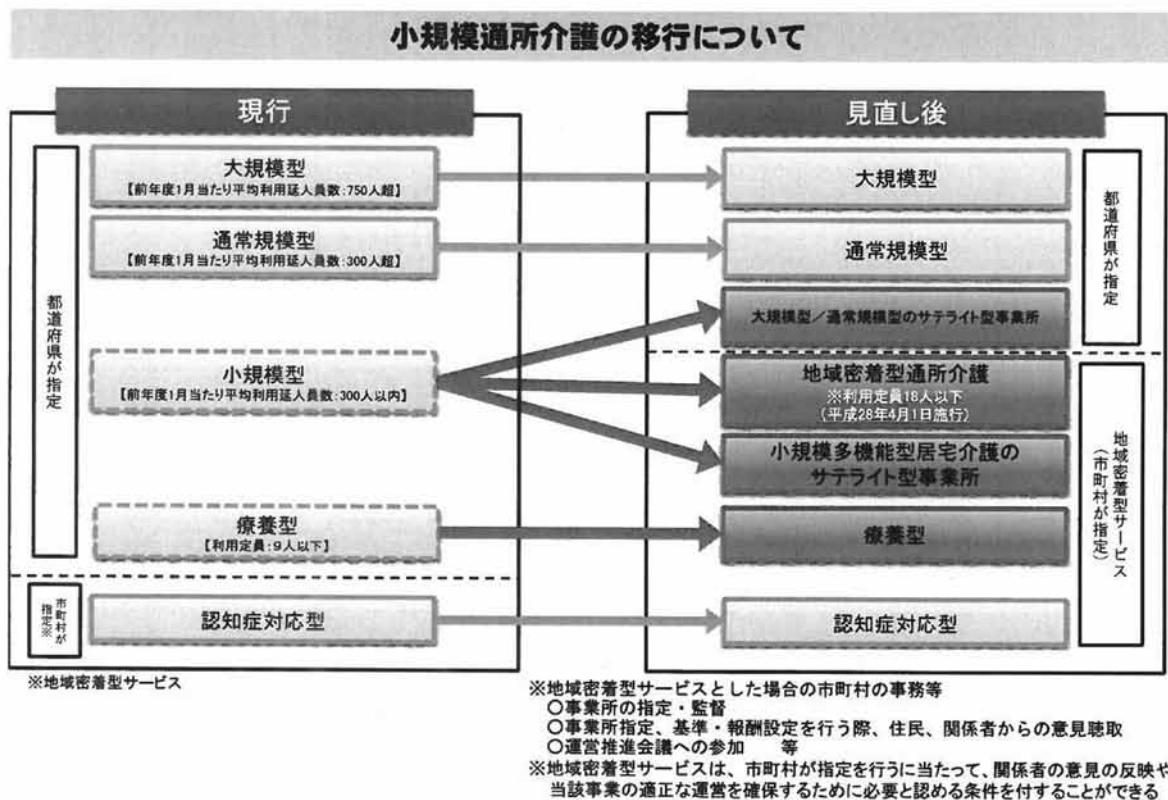
平成28年4月1日、通所介護の区分が変更します。どのように変化するのか、この説明会で提示された情報をまとめました。内容につきましては、群馬県健康福祉部医療介護局介護高齢課居宅サービス係長の青木琢哉様にご確認いただきました。

通所介護事業所はどのように変化するのでしょうか？

- ・平成28年4月1日以降、定員18人以下の居宅サービスの通所介護事業所は、新たに創設された地域密着型通所介護に移行し、居宅サービスの通所介護事業所は定員19人以上となります。

※同時に平成28年4月から通所介護の規模別報酬の区分の小規模型も廃止されます。

大規模型（750人超）通常規模型（300人超）は変化しません。



・小規模型事業所は以下の5つの移行方法を選択できます。

- ①新しく創設される地域密着型通所介護（利用定員18人以下）に移行
- ②大規模型/通常規模型のサテライト型（同一法人事業所・人員基準は緩和）に移行
- ③小規模多機能型居宅介護のサテライト型に移行
（宿泊室の設置整備は30年3月31日まで猶予期間あり）
- ④利用定員を19人以上に増やし、大規模型/通常規模型に移行
- ⑤通所介護事業を廃止する。

・28年4月1日までに特に申請を行わなかった場合は・・・

- ①利用定員18人以下の事業所は「地域密着型通所介護」へみなし指定となります。
- ②利用定員19人以上で、小規模型で行っていた事業所は通常規模型となります。
※それ以外の移行を希望する事業所は各種申請が必要となります。

・創設された「地域密着型通所介護」は・・・

- ①指定権者が群馬県から事業所所在地の市町村になります。（市町村の運営基準等の条例制定については施行から1年間の経過措置を設けていますので、29年3月31日までに条例が制定されます）
- ②原則として事業所のある市町村の被保険者（住民登録がある住所地特例者を含む）がサービスを利用できます。
- ③事業者は概ね6ヶ月に1回以上「運営推進会議」を開催しなければなりません。

介護支援専門員が知っておきたい事（3月中に確認しておきたい事）

介護報酬：小規模型が地域密着型通所介護に移行した時は今までと変わりません。

その他の移行は異なる報酬となります。（特にサテライト型は要チェック！）

各種書類：計画書、契約書、個人記録、担当者会議等は継続して利用ができます。

事業所番号：地域密着型通所介護へ移行した事業所の番号は変わりません。

利用者：原則として事業所のある市町村の被保険者（住民登録がある住所地特例者を含む）がサービスを利用できます。

現在、他の市町村から利用されている方は、住民登録のある市町村の指定が必要となります。尚、4月以降に他の市町村から利用開始を希望する場合は、改めて指定が必要となります。

（居宅介護支援 温守 前田正博）

群馬ケアマネジメントフォーラム XIII in 西毛

実行委員長 高麗 寿史
(群馬県介護支援専門員協会 理事)

来年度のケアマネジメント群馬フォーラムは、大会長に相原優子先生（医療法人育成会 篠塚病院 認知症医療疾患センター 副センター長）をお迎えし、平成28年7月10日(日)にサンピア高崎にて、「ケアマネジメント群馬フォーラムXIII in 西毛」テーマは、『いかに生き、いかに逝くか』－“生ききる”を支えるために私たちにできること－として開催する予定です。

今回は、西毛ブロックが担当し、藤岡支部を中心に他支部の皆様や学術研修委員をはじめとする役員の皆様方のご協力を頂きながら、着々と準備を進めているところです。

詳細はこれからですが、午前中のプログラムは、石飛幸三先生（特別養護老人ホーム 芦花ホーム）のご講演の後に、自然死を看取った家族介護者とそれに関わったケアマネ・訪問看護師・主治医等によるシンポジウムを予定しております。ランチョンセミナー（認知症系と嚥下障害系の2つ）を挟んで、午後のプログラムでは、前回好評であったワールドカフェ方式のグループワークを、菅野圭一学術研修委員長をメインコーディネーターとして行う予定です。

『その人らしい人生』とは、「どのように逝くか」もひっくるめて「どのように生きるか」なのだと思います。対人援助の専門職として、要介護者が“生ききる”ことを支えていくために私たち介護支援専門員は何をなすべきか、なさなければならないか。みんなで考えましょう。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

「理事会・各委員会の活動報告」

理事会

会長 大澤 誠

医療介護連携調整実証事業にかかる退院調整状況調査がスタート致しました。皆様のご協力をお願いいたします。2月6日(土)の特別講演会「地域包括ケアを考える集い」の最終打ち合わせが行われました。7月10日(日)開催のケアマネジメントフォーラムXIII in西毛に向けて、相原大会長、高麗実行委員長のリードのもと着々と準備が進んでいます。

学術研修委員会

学術研修委員長 菅野 圭一

来年度からの現任研修に対する当委員会のかかわりについてですが、群馬県社会福祉協議会とも話し合いを行い、当協会に再委託していただくことで、平日の勤務帯だけでなく、夜間や土日にも研修を行えるよう提案をしています。詳細は未定ですが、会員の方々の御負担が少しでも軽減するように努力していきます。また、2月6日(土)の特別講演会に関しても、実りあるものにするよう準備しました。

広報情報委員会

広報情報委員長 松本 勝美

広報情報委員会では、介護支援専門員協会の活動や介護支援専門員についてのご理解を深めて頂けるよう県内の市町村、包括支援センター、社会福祉協議会、郡市医師会、歯科医師会、薬剤師会、理学療法士協会、作業療法士協会、言語聴覚士協会にも定期的にケアマネ群馬を発送することと致しました。

総務財政委員会

総務財政委員長 高橋 正彦

1月12日(火)の委員会に於いて、2月18日(木)から行われる更新研修、及び実務研修最終日に、昨年同様 新規会員の入会案内を行うことになりました。

当日は、当協会の講師の方々に、受付を御願ひして、一人でも多くの新規会員獲得に努めます。会員の皆様にも、協会加入に向けてより一層の協力を御願ひ致します。

東毛4支部（桐生・みどり、伊勢崎、邑楽・館林、太田）合同研修会報告

平成28年1月23日（土）13：30～17：30 太田市浜町勤労会館において「医療職が求めるケアマネの姿 課題抽出と解決のための技術」というテーマで多職種間のコミュニケーションギャップを埋めるための効果的な手法 その実践のコツは・・・という内容で結コーチングオフィス代表鈴木結子先生に講義と演習を交えて学ばせていただきました。今にも雪が降りそうなお天気の中、50名位の方が参加しました。



【感想 1】

研修会はコミュニケーションの技術について改めて考えさせられる内容でした。コーチング技術を活かし相手を知るにはまず自分からと自己診断を行なった結果、私は、一番多い友好派でした。当てはまる特徴が多く、「なるほど」と思う一方、弱点も多いことに気づかされました。



ケアマネジャーだけでなく、人は様々な方々とコミュニケーションをとります。上手いかない場合ももちろんあります。「そんな時は視点を変えて！戦略を練る」その方法がちょっとした気づきの世界からでした。今回、講師として鈴木結子コーチには、様々な場面で役立つきっかけを頂いたことに感謝申し上げます。

（板倉町社会福祉協議会 柏崎 崇）

【感想 2】

今回の研修は、「コミュニケーションギャップを埋める手法」という内容と、自己研鑽したいという思いから参加させていただき、講師である鈴木結子先生に、コーチングとは「相手の自発的な行動」を促すコミュニケーションスキルということを学ばせていただきました。その中で自己診断テストがあり、40の質問から自分のコミュニケーションタイプを知るテストにより、参加者全員を現実派・社交派・理論派・友好派という4つのタイプに分け、グループワークを実施しました。各タイプには特徴があることや、人との関わり方の解説をしていただき、大変楽しく学ぶことができました。

（新田地域包括支援センター 木村 豊）



渋川支部



2月5日(金)18時半から、渋川圏域支部恒例のケアマネとサービス事業所交流会が開催されました。毎年80名近い参加者ですが、今年も81名の参加でとても盛り上がりました。お店のご厚意で、交流会開始の時間前でもビールを飲む練習をしていいですよなどと声をかけていただき有難くスタートできました。話す内容は、仕事のこと、趣味のことなど、どの塊も楽しそうにワイワイしていました。そのうち営業らしい内容で動き回る方々、新人を紹介しながら回る方々、え？その地区にデイが新しくできるの？など情報交換もできて2時間があっという間に過ぎました。

(渋川市在宅介護支援センターしづかわ 高橋敬子)

前橋支部

1月18日(月)と2月17日(水)の2日間の日程で「面接技術のスキルアップ」と題して、駒澤大学の荒井浩道教授をお招きして研修会を開催する予定でしたが、1月18日(月)は大雪のため中止となってしまいました。2日間の内容を、ポイントを絞って2月17日(水)に行く予定ですので、次回の広報でご報告させていただきます。

1月24日(日)は群馬県庁で行われた「前橋地域 在宅チーム医療・介護人材育成研修」に参加してきました。前橋市地域包括支援センター中央の大崎治氏より「地域包括ケアの実現に向けて在宅医療・介護連携の推進」について、前橋市医師会の下田隆也氏より「在宅医療連携センター構想」と題し、前橋地域在宅医療連携センター(仮)について説明がありました。

その後、前橋市を5ブロックに分け、各ブロックに医師・歯科医師・薬剤師・看護師・MSW・PT・OT・ST・介護福祉士・歯科衛生士・管理栄養士・ホームヘルパー・地域包括・社会福祉協議会等の職員が配置され、グループディスカッションで有意義な情報交換・顔の見える関係づくりを行うことができました。各関係機関の役割を理解し、多職種連携体制の構築に向けて実践していきたいと思います。

(ケアプランセンター老研 野中和英)

事務局からのお知らせ

会費を納入下さる皆様へのお願い

平成28年度会費振込用紙を同封いたしました。

お振り込みいただく際、振込用紙の依頼人の覧に、必ず自身の住所・電話番号・お名前をご記入下さい。

せっかく会費を納入いただきましても、お名前が未記入の場合、入金のお手続きができなくなってしまいますので、お振込の際には再度確認をお願いします。

会費登録に変更のある皆様へ

住所変更・勤務先変更等のある方は変更届のご提出をお願いいたします。

提出いただけない場合には、郵便物等お届けできなくなってしまいます。

変更届・入会申込書・退会届につきましては、本会ホームページより《事務局から→変更届（こちらから）・退会届（こちらから）》からダウンロードしていただき、必要事項を記入しFAX送信していただくか、本会事務局までお問い合わせください。

一社）群馬県介護支援専門員協会事務局（群馬県社会福祉協議会 地域福祉課内）

TEL 027-255-6226

FAX 027-255-6444

事務担当 新井

編集 後記

今年は沖縄で39年ぶりに雪が観測されたそうです。「今年の冬は暖冬だけど大雪に注意」秋にそんな予報が出ていたのを思い出しました。

今回初めてケアマネ群馬の編集を担当させていただきました。原稿を執筆して下さった方々を始め、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。(M)